

5) う め

(1) 防除法 (殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～6 月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン水和剤 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤 3 4 マラソン乳剤	○ ダイアジノン水和剤 3 4 は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
アメリカシロヒトリ	4～5 月 8～9 月	○ 幼虫ふ化初期の群生している枝は、除去して焼却する。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤 3 4	○ ダイアジノン水和剤 3 4 は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
カイガラムシ類	越冬期 (3 月) 5～8 月	○ 発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 (「落葉果樹」の項を参照) ○ 幼虫定着期に次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤	
コスカシバ	休眠期 (10～4 月)	○ 幼虫を刺殺する。 ○ 多発園ではスカシバコン L を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4) 性フェロモン剤」の項を参照)	○ 幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞をめあてに行う。